

神鋼環境ソリューション モンゴル交流の軌跡

1995年1月17日

阪神淡路大震災発生。阪神間は甚大な被害を受ける。その際に、海外から真っ先に支援の手を差し伸べてくれた国がモンゴルであった。毛布2100枚、手袋500組、その他の支援物資を、プレブドルジ副首相(当時)が政府特別機にて輸送し提供してくれた。副首相は、関西空港で支援物資の引渡しが終わると、「長居をしてご迷惑を掛けたくない」と、僅か90分だけの日本滞在で機上の人となった。



1996年1月～6月

モンゴル北部で大規模な森林火災が発生し、約230万haという広大な森林が失われ自然が破壊された。

1996年末～1997年初頭

モンゴルで大規模な雪害が発生し、約70万頭もの家畜が死に、遊牧をしている多くの国民の財産が失われた。

1999年5月29日

環境問題をメインテーマに取り上げ、20代の一般組合員を対象とした「スキルアップセミナー99」を開催。

講師である兵庫県環境局の小林悦夫局長(当時)より、これからの組合は海外に目を向け「環境」に対して考え行動する組合へ変革していくことが重要であるという助言を頂く。また兵庫県が行っている「モンゴル森林再生プロジェクト」についての話が紹介され、これに合わせた民間交流促進の重要性についての話を伺う。

1999年～2002年

モンゴルのマンホールチルドレンへの支援を行なっている NGO アジア・アフリカ環境協力センターの活動に参画し、ウランバートル赤十字を窓口とした支援活動を実施。また馬頭琴、ホーミーなどのモンゴル民族音楽を中心としたチャリティコンサートをこらべしないで開催するなど文化交流活動を開始。

2001年7月28日

兵庫県但東町(現在は豊岡市)にある日本・モンゴル民族博物館金津館長を講師として招き、播磨製作所の青年部を対象とした、スキルアップセミナー「播磨」2001を開催。「地方から世界を視る」と題した講演の中で、今後のモンゴル交流活動にタイする様々なアドバイスを受ける。



2001年10月2日

東京支社の30代の一般組合員を対象とした、パワーアップセミナー東京2001を開催。外務省アジア大洋州局中国課モンゴル班の藁谷課長補佐(当時)による、講演「日本とモンゴルの交流 ～私とモンゴルの出会いを通じて～」が行われた。

2002年12月17日～22日

これまでのモンゴル交流活動を見直し、新しい交流の方向性を検

討するため、井上事務局長(当時)がモンゴルを訪問。金津館長から紹介されたデムベレル博士と協議を行うとともに、オブス県マルチン郡を訪問し視察を行なった。

この視察および検討の結果、オブス県マルチン郡との交流を行い、本を贈呈する活動をモンゴル交流の今後の柱とする方向性が決定された。

2003年5月

第1次図書贈呈団派遣の準備を進めてきたが、アジア地域での SARS(重症急性呼吸器症候群)拡大による海外渡航自粛により一年間の延期を余儀なくされた。

2004年5月29日～6月5日

新しい交流の始まりとなる「第1次図書贈呈団」として、井上団長をはじめ、松原、山口、棚橋、黒田、冷水の6名がオブス県マルチン郡を訪問した。贈呈団は、贈呈する図書を直接手渡しすると共に、日本文化の紹介やバレーボールの指導などを通じて、マルチン郡の方々との交流を深めた。



2003年～2006年

兵庫県が行うモンゴル森林再生プロジェクトの現地視察と体験植樹を目的とした「モンゴル植樹体験・交流ツアー」(財団法人ひょうご環境創造協会主催)に参加しながらモンゴル交流を継続。

2007年4月29日～5月16日

六間道商店街(神戸市長田区)のフリーマーケットに青年部が中心となり出店。売上金113,554円を第2次図書贈呈団の図書購入資金の一部として充当した。



2007年5月28日～6月5日

「第2次図書贈呈団」として、大野団長、黒岡、坂本、永野、角尾、岡田の6名が、オブス県マルチン郡を訪問。また、エルデネット市にある児童施設「エネレル子どもセンター」を訪問し、子どもたちとの交流を行った。

2007年10月31日

世界気象機構(WMO)ニューヨーク事務所長(元駐日モンゴル国大使、元モンゴル国環境大臣)のザンバ・バドジャルガル博士を講師に迎え、ワークショップ「Think

Gloally Act Locally 環境について考えよう」を開催。バドジャルガル博士はオブス県出身でマルチン郡との交流に対して高い評価と今後の応援を約してくれた。

2007年12月7日

第1次図書贈呈団のメンバーの一人であった冷水真吾くんが、不慮の事故により若干27歳でその生涯を終える。

2008年6月21日～26日

冷水真吾くんのご両親より、マルチン郡の子供たちへのバレーボール寄贈の申し入れがあり、関谷執行委員長(当時)と藤崎人事労政部主任部員(当時)の2名がマルチン郡を訪問し、バレーボールの贈呈を行なった。その際、冷水くんの第1次図書贈呈団におけるバレーボールを通じた交流と、今回のご両親からのボールの寄贈に対し、マルチン郡小中学校教育委員会よりご両親に対して感謝状が贈られた。



2008年6月26日～30日

全神戸製鋼所労働組合連合会の坂本会長(当時)が、モンゴルとの交流活動の神鋼連合全体への展開の可能性や、兵庫県が行っている森林再生プロジェクトの視察のためモンゴルを訪問。当労組より関谷、大野が同行し、ウランバートル近郊の育苗場や森林再生センターなどを視察するとともに、在モンゴル国日本大使館の市橋特命全権大使(当時)への表敬訪問を行なった。



2010年3月27日

「冷たい水の流れがつなぐモンゴル ～モンゴル文化との交流&企画展～」を開催。基調講演として駐日モンゴル国特命全権大使のレンツェンドー・ジグジッド閣下による講演が行われた。あわせて、マルチン郡の子供たちが描いた絵画の展示や、モンゴル人写真家ガンゾリグ氏の写真展示、民族衣装などの資料の展示が行われた。

2010年5月15日～24日

東遊園(神戸市中央区)のフリーマーケットに青年部が中心になり出店。売上金を第3次図書贈呈団の図書購入資金の一部に充当した。

2010年5月27日～6月4日

「第3次図書贈呈団」として、大野団長、川端、福井、東田、神地の5名が参加。今回初めて神鋼鋼線工業労働組合からも東、近藤、野井の3名が参加した。また冷水くんのご両親も同行し、そのサポート役としての人事労政部福留主任部員を含め、総勢11名でマルチン郡を訪問した。今回は、贈呈式に合わせて関谷前執行委員長から末永く続く友好の証として寄贈された「友好のモニュメント」の除幕式が執り行われた。マルチン郡のT.ツェンデスレン郡長からは、これまでの交流で贈呈された図書を収蔵している図書室を「冷水真吾記念図書室」と命名し、郡民の皆で大切に使うことが告げられた。



2011年3月21日

故冷水真吾くんのご両親より、マルチン郡の子供たちにバレーボールを通じた育成を願う思いを込めて、バレーボール用ネットの寄贈申し入れがあり、関谷前委員長がマルチン郡を訪問し贈呈を行なった。その際、これまでの交流に感謝する証として、マルチン郡として外国人初の授章となる「名誉市民証」が関谷前委員長に授与された。また、東日本大震災へのお見舞いと、マルチン郡の行政、学校、幼稚園などで募った534名からの義援金46万トゥグルク(約31,000円)、子どもたちが描いた応援メッセージの絵を預かった。

(この義援金は日本円に換金の上、神戸新聞社厚生事業団に寄付しました。)



第3次図書贈呈団の概要



贈呈団の構成

大野 公一(団長・執行委員長)、川端 健(事務局・執行委員・当時)
 福井 篤史(会計監査委員・当時)、東田 貴志(播磨ブロック)、神地 泰宏(大阪ブロック・当時)
 東 太志(神鋼鋼線工業労組)、近藤 正哉(神鋼鋼線工業労組)、野井 勇希(神鋼鋼線工業労組)
 冷水 覚・美代子(故冷水真吾さんのご両親)、福留 晶(人事労政部主任部員・当時)

日 程： 2010年5月27日(木)から6月4日(金)、9日間

行 程

	月日	地名	内容
初日	5月27日(木)	出国	関西国際空港より仁川国際空港を經由してモンゴルへ移動
2日目	5月28日(金)	ウランバートル エルデネット	A班：ウランバートルより車でエルデネットへ移動 エネレル子供センターで交流 B班：国営テレビスタジオ出演 日本大使館を表敬訪問
3日目	5月29日(土)	ウランバートル エルデネット	A班：エルデネットより車でウランバートルへ移動 日本センターで企画展を開催(B班と合流) B班：日本センターで企画展の準備 日本センターで企画展を開催
4日目	5月30日(日)	ウランバートル オランゴム マルチン郡	ウランバートルより飛行機でオブス県オランゴムへ移送 オランゴムより車でマルチン群へ移動
5日目	5月31日(月)	マルチン郡	図書贈呈式の準備 映像・企画展の準備
6日目	6月1日(火)	マルチン郡	図書贈呈式、映像・絵画展 文化交流、スポーツ交流
7日目	6月2日(水)	マルチン郡 オランゴム	マルチン郡より車でオブス県オランゴムへ移動
8日目	6月3日(木)	オランゴム ウランバートル	オブス県オランゴムより飛行機でウランバートルへ移動
9日目	6月4日(金)	帰国	モンゴルより仁川国際空港を經由して関西国際空港へ移動